

秋の気配

夏休みも終わり、二学期が始まり3週間が経とうとしています。

この間に、相次いで九州地方を襲った2つの台風が過ぎ、ここ数日は朝夕と少しずつですが秋の気配が感じられるようになりました。そして、子ども達、保護者の方々、そして先生方に台風の大きな被害がなくほっと胸をなでおろしているところです。

8月の終わりごろから、福岡高等学園の校舎近くでは、朝方や夕方にはたくさん赤とんぼが飛んでいます。

まるで秋の訪れを教えてくれるかのようです。先日も、部活動が終わったグラウンドに目をやると、近くの天拝湖から飛んでくるのでしょうか。たくさん赤とんぼが群れをなして飛んでいて、その姿はとても優雅で心をなごませます。そして、どこか、懐かしくやわらかな気持ちにさせてくれます。

また、日が落ちてあたりが暗くなると、どこからともなくコオロギなど虫たちの鳴き声も聴こえてきます。昼間はまだまだセミの鳴き声も多いのですが、このように自然いっぱいの中での学校生活と寄宿舎生活を生徒たちは送っています。

勉強の秋、スポーツの秋、音楽の秋、読書の秋、食欲の秋など様々な秋があります。部活をしている生徒の数名に「あなたの秋はどんな秋？」と尋ねました。

やはり、体育会系の部活の生徒は「運動の秋」「スポーツの秋」という意見が多かったです。そして文科系の部活に所属している生徒は、「音楽の秋」とか中には「芸術の秋」と答えた生徒もいました。

私は、生徒のみなさんにはどんな秋でもよいので自分らしい秋を見つけてほしいと思います。それが、将来、みなさんの余暇活動の充実や生活の豊かさにつながればよいなと思っているからです。だから、他の人と比べる必要もないと思っています。

さて、授業の中、あるいは寄宿舎生活の中では、マスクを着ける、密を防ぐといった新しい生活様式が定着する一方で、どこかしら、この状況に慣れてしまい、緊張感が薄らいでいるのではと心配になる光景が見られることがあります。

新型コロナの影響で、行事においても、春の体育祭がなくなり、これまでして当たり前と思っていた寄宿舎の行事も中止になっています。これまでできていたことができなくなってしまうことが今年はたくさんあります。

だからこそ、健康・安全に配慮しながら、先生方と知恵を出し合い工夫することで、生徒のみなさんができることを増やしたと思います。

校長 牛島 大典